

鉄鋼標準化センター

活動報告

1. トピックス

1. 国際標準化関係

1. ISO/TC17/Executive Committee会議

Executive Committeeは、鉄鋼の国際標準化の推進についてISO/TC17事務局(鉄鋼協会担当)を助言する立場にある。事務局主催の会議で、今回6月9、10日、パリで開催した。欧州各国は欧州統一規格の制定、現在の経済危機から、最近数年間ISO活動に必ずしも積極的でない。しかし、参加者の協力により、事務局は一応所期の成果を得た。以下、主要討議項目は下記の通り。

(1) Strategic Policy Statement: Strategic Policy Statementは今後の活動基本方針となるものである。事務局は作業のスピード、新規規格案件の候補の抽出、規格の定期見直しの進め方等を中心に提案し、基本的な合意が得られた。今後のTC17傘下分科会の作業の指針となる。

(2) Vienna Agreement (ISOとCENの協定): この協定はISOとCEN(欧州標準化機構)の間の作業重複の防止を目的としている。ISO/TC17内での推進につきフランスよりCEN側に有利な解釈のもとで、両者に共通の規格案件をいづれかに帰属させる提案があった。しかし、国際標準化の優位性維持の見地から、事務局中心で内容再検討を決定。

(3) ISO9000シリーズ適用のためのガイド: 日本より鉄鋼業でのISO9000シリーズの具体的な適用のためのガイドの制定を提案したが、欧州側は欧州統一規格の作成で余裕がないことと最近の経済状況から、日本提案に消極的であり、当面見送り決定。

2. ISO/TC67(石油、天然ガス用機器、材料)/AG3会議

TC67/AG3はTC67全体の標準化課題の討議が対象で、今回の第1回会議は6月14日、ハーグで開催された。主要議題はAPI規格のISO化の推進状況の把握とCENの規格案件のISO/TC67での作業引受けであった。前者についてはISO中央事務局の作業促進を強力に要請することを確認した。また、CENの要請には積極的に応ずることを決定した。従って、石油、天然ガス部門の標準化はISO/TC67で一元的に推進することになった。

2. 国内標準化関係

1. JISマーク表示制度に関する指定品目削減提案

工業技術院標準部材料規格課では、鉄連で調査、検討の結果作成した「鉄鋼製品のJISマーク表示制度改善に関する検討報告書」を基に鉄連では対象外であった線、線製品、鍛造品、フェロアロイ等を含めた鉄鋼52品目について、抜本的見直しを実施するに当たり鉄連案を念頭においた品目指定の選定基準(案)、及び選定基準(案)によって当て

はめた品目リスト(案: 20品目削除)を作成し、それぞれの良否について鉄鋼部門の関係学協会、工業会に対し意見照会を行っている。

2. TC17幹事国業務

1. 規格発行についてSC議長の決定がなされたもの: 3件
DIS1005-1(SC13)鉄道車輪用タイヤ(05-17)
DIS1005-6(SC13)鉄道用一体型車輪(05-17)
DIS5948(SC13)鉄道用材料の超音波探傷試験(05-17)

2. SCがDIS登録を申請したもの: 3件
CD11949(SC9)電解ブリキ(04-19)
CD11950(SC9)電解Cr-Cr酸化物メッキ鋼(04-19) CD11951(SC9)ブリキ及びECCS用コイル(04-19)

3. 第8回TC17/EC国際会議(於パリ)結果: トピックスに掲載

4. 第17回SC11国際会議(5月13、14日、ワシントン)結果

(1) DIS4992(鋳鋼の超音波試験)投票結果の取扱い

(2) WG作業進捗状況の討議WG7(溶接施工試験要領)、WG8(目視検査)、WG9(耐食鋳鋼)-修正案をCDとして回付 WG10(耐熱鋳鋼)-Ni合金の追加を決定。TC155とのLiaisonはTC17Secretariatにて検討。

(3) 新WGの設置の決定WG11(オーステナイト鋳鋼のフェライト量の測定)、WG12(Mn鋼)、WG13(遠心鋳造管)

5. 第12回SC19国際会議(5月12、13日、ミラノ)結果

日本代表2名(NKK、住金)が出席。TC17Secretariatからも出席。下記を決定。

(1) DIS11484(非破壊試験者の資格認定)は一部修正の上、ISO中央事務局に提出。

(2) CD12096(圧力用途用SAW鋼管の溶接部欠陥検出RT)は、CDとして3ヵ月投票にかける。

(3) 圧力用途用鋼管のDIS6件の6ヵ月投票時のコメントの審議。高温用、低温用継目無鋼管(DIS9329-2,3)及びERW鋼管(DIS9330-2,3)は主としてEditorialな変更のみ採用。Pメンバ承認後、修正DISを中央事務局へ提出。高温用、低温用SAW鋼管(DIS9330-4,5)は、溶接補修の検討のためWG2を新設。第1回会議は8月4、5日、パリの予定。討議結果により2nd DISの2ヶ月投票を予定。

3. TC17/SC1幹事国業務

1. 承認段階(Stage4):

(1) DIS 10702(N-蒸留滴定法); ISOゲラ刷りを修正し中央事務局へ返送(05-12)

(2) DIS 10698(Sb-無炭原子吸光法); DIS投票完。1993-05-19

(3) DIS 10697-2(Ca-原子吸光法); DIS投票完。1993-04-29

(4) DIS 10700(Mn-原子吸光法); DIS投票中。締切1993-06-30

(5) DIS 10701(S-吸光光度法); DIS投票中。締切1993-06-30

(6) DIS 439(Si-重量法); DIS投票中。締切1993-08-11

2. 委員会段階(Stage3):

(1) CD 10278(Mn-プラズマ); コンビナーが最終CD作成完。事務局にて仕上げ中。

(2) CD 10719(GC-燃焼赤外線吸収法); コンビナーが最終CD作成完。(04-29)

(3) CD 10720(N-融解熱伝導率法); 再予備実験中。締切06-30。学振と共同予備実験

(4) CD 11652(Co-原子吸光法); 再共同実験中。締切05-30

(5) CD 11653(Co-電位差滴定法); 近日共同実験開始予定。

(6) CD 4941(Mo-吸光光度法); 中央事務局へDIS登録申請。(05-31)

3. 作成段階(Stage1/2):

(1) WG 32(Ni, Cu, Co-ICP法); 共同実験準備中。

(2) WG 33(Mo, Nb, W-ICP法); 近日共同実験開始予定。

(3) WG 34(微量B-吸光光度法); 共同実験開始。

(4) WG 35(微量B-ICP法); 近日共同実験開始予定。

(5) WG 36(高S-HFIR法); 近日共同実験開始予定。

4. TC17/SC20/WGのConvener業務

ISO 377-2(分析試料採取・調製); Convener(UK/ISO/TC17/SC1)がWDをISO/TC17/SC20に提出。(04-03) ISO/TC17/SC20にてCD回付準備中。

4. TC67/SC5幹事国業務

(1) 第3回ISO/TC67/SC5国際会議(9月20、21日、デュッセルドルフ)開催通知、議題案をISO中央事務局より受領。

(2) 第6回TC67/SC5/WG1(ケーシング、チュービング及びドリルパイプ)国際会議(6月17、18日、ニューオリンズ)に日本代表2名(NKK、住金)を派遣。

(3) 第1回TC67/SC5/WG2(継手性能評価試験方法)国際会議(5月24、25日デュッセルドルフ)に日本代表2名(新日鉄、川鉄)を派遣。

(4) 第1回TC67/SC5/WG3(耐食性油井管)国際会議(6月1~3日、ミラノ)に日本代表2名(住金、NKK)を派遣。5月19日TC67/SC5諮問部会第2回WG3(耐食性油井管)を開催し、上記国際会議への日本対応を審議。

(5) 5月26日ISO/TC67総会の日本開催(1994年)第1回準備会を開催。工技院、鉄鋼協会より石油業界に共催要請。

5. 第1回ISO/TC67(石油、天然ガス用機器、材料)/AG3会議

(トピックスに掲載)